コースコード：DO-SREF
税込価格：140,800円 (税抜価格：128,000円)
日数：2日間

前提条件

一般的なDevOpsの定義と原則に関する基本的な知識があること

受講対象者

SRE Foundationコースの対象者は、以下のようなプロフェッショナルです。
・信頼性向上への取り組みを始めた方、または主導している方
・現代のITリーダーシップや組織変革のアプローチに興味のある方

コース概要

本コースは、組織が重要なサービスを確実かつ経済的に拡張するための原則と実践を紹介します。サイト・リライアビリティの側面を導入するには、組織の再編成、エンジニアリングおよび自動化への新たな取り組み、そしてさまざまな新しい作業パラダイムの採用が必要です。

本コースでは、SREの進化とその将来的な方向性に焦点を当て、信頼性と安定性に関わる組織全体の人々を巻き込むための実践、手法、ツールを、実際のシナリオやケーススストーリーを用いて習得します。このコースを修了すると、参加者は、サービスレベル目標(SLO)の理解、設定、追跡など、会社に戻ってから活用できる具体的な成果を得ることができます。
このコースは、SREの主要な情報源を活用し、SRE分野のオピニオンリーダーと協力し、SREを採用している組織と協力して実際のベストプラクティスを抽出することで開発され、SREの採用を開始するために必要な主要な原則と実践を学ぶことができるように設計されています。
このコースは、SRE Foundation認定試験の合格を目指す学習者を位置づけています。

目的

SRE Foundationコースの学習目標には、以下の実践的な理解が含まれています。

SREの歴史とグーグルでの登場について
SREとDevOpsやその他の一般的なフレームワークとの相互関係
SREの基本理念
サービスレベル目標(SLO)とそのユーザーフォーカス
サービスレベルインジケータ(SLI)と現代のモニタリング事情
エラーバジェットとそれに伴うエラーバジェットポリシー
トイルと組織の生産性への影響
トイルをなくすためのいくつかの実践的なステップ
サービスの健全性を示すものとしての観測性
SREツール、自動化技術、セキュリティの重要性
アンチフラジリティ、失敗と失敗のテストに対する私たちのアプローチ
SRE導入がもたらす組織的なインパクト

アウトライン

1. DevOpsの探求
- DevOpsの定義
- なぜDevOpsが重要なのか
- ビジネスの視点から
- ITの視点から

1. SREの原則と実践
- SREとは？
- SREとDevOps：その違いとは？
- SREの原則と実践

2. サービスレベル目標とエラーバジェット
- サービスレベル目標(SLO: Service Level Objective)
- エラーバジェット
- エラーバジェットポリシー

3. トイルの削減
- トイルとは？
- なぜトイルは悪いことなのか
- トイルをどうにかする

4. モニタリングとサービスレベル指標
- サービスレベル指標(SLI: Service Level Indicators)
- モニタリング
- オブザーバビリティ

5. SRE ツールと自動化
- 自動化の定義
- 自動化の焦点
- 自動化の種類の階層
- セキュアオートメーション
- 自動化ツール

6. アンチフラジリティと失敗からの学習
- 失敗から学ぶ理由
- アンチフラジリティのメリット
- 組織のバランスを変える

7. SRE の組織的影響
- 組織がSREを導入する理由
- SRE導入のパターン
- SREの業務内容
- 持続可能なインシデント対応
- 非難なしのポストモーテム
- SREとスケール

8. SREとその他のフレームワーク、将来について
- SREとその他のフレームワーク
- SREの進化

9. その他の情報源
- 試験の準備
- 試験条件、問題の重み付け、用語のリスト

10. サンプル試験レビュー

DevOps Institute認定資格試験の受験について
受講者様のご希望の日時(各自で設定可能 ※受験バウチャーの有効期間内
後日、職場や自宅などから各自でご受験いただけます)

受験申込方法およびバウチャー有効期限につきましては、受講者ポータルでお知らせいたします。
DOIの試験は、PeopleCert社によって実施されます。
サンプルペーパーと試験は、Foundation v3.10に基づいています。